

DMAT

岩手県立大船渡病院 救命救急センター長
よこさわともき 友樹さん

Q どんなときにドクターカーで出動するのですか?

ドクターカーの運行に携わっている皆さんからお話を聞きました!

Q どのような体制で出動するのでしょうか?

119番通報のあった患者や現場の状況に応じて、消防から要請を受けたときに出動します。あらかじめ要請を判断するためのキーワードを決めて、消防と共有しています。例えば「呼吸困難」「大量出血」「車の横転」などですね。

Q どのように体制で出動するのでしょうか?

基本は、医師・看護師・運転手の3人体制です。救急車と合流したら、医師と看護師が救急車に移って患者を処置します。車の横転などですね。

Q ドクターカー導入の効果が実感できた事例は?

最近対応したケースでは、三陸町から搬送した患者さんです。背中の急な激痛ということで、消防から要請があり出動しました。ドッキングポイント(指定の合流場所)で救急車と合流し、患者さんの血圧や脈拍は正常でしたが、明らかにつらそうな様子から、私と救急隊は「大動脈解離の可能性が高い」と判断。大船渡病院に向かう20分ほどの間に、車内で心電図検査や採血、造影剤投与の準備など、救急外来と同じ処置を先に進めました。病院到着後の詳しい検

Q 出動するときに心がけてじる」とはありますか?

消防からの情報をもとに、想定される疾患や病態を看護師と共有することです。先ほどのケースにあった「背中が痛い」という症状ひとつでも、さまざまな原因が考えられます。ドッキングポイントに向かう間に、どういった処置を行ななどを話し合っています。

Q どんなときにドクターカーで出動するのですか?

ドクターカーはあくまで人と医療機器などを運ぶための車両なので、その中で処置はしません。場合によっては、救急救命士や研修医が同乗して4~5人で出動することもあります。

Q 出動するまでの時間はどの程度かかることが多いですか?

通常なら転院搬送まで2時間程度かかることが多いのですが、このときは1時間15分ほどで完了しました。搬送までの時間短縮の効果を、強く感じた事例です。

Q 転院搬送となりました。

査で大動脈解離と確定し、すぐに岩手医科大学附属病院へ転院搬送となりました。

▼問い合わせ先
国保医療課(内線149)

特集 救急医療の最前線

～ドクターカーと地域医療を考える～

緊急車両のサイレンの音が聞こえてくると「どんな現場に向かっているのだろう」と思うことはありませんか?その中には、医師や看護師が同乗して診療を行う「ドクターカー」も走っています。県立大船渡病院では、令和6年4月から県内初となるドクターカーの試験運行を、令和7年10月からは本格運行を開始しています。市内には、救急車の到着までにかなりの時間を要する地域もあり、いざというときに患者やその家族の安心を支える体制が必要です。市は、地域の医療機関や消防組合と協力し、さらなる地域医療の充実を進めています。

今月の特集では、市の地域医療を支えるドクターカーの仕組みと、もしものときに知っていると役立つ医療サービスなどを紹介します。

■ドクターカーと救急車の違い

	ドクターカー	救急車
乗車するスタッフ	医師、看護師、救急救命士など	救急隊員(救急救命士を含む)
主な役割	現場での医師による早期の診療	患者を安全に医療機関へ搬送する
行える処置	医師による投薬・処置などの診療	救急救命士による特定行為などの法令で定められた範囲の処置

■ドクターカー出動の流れ



ドクターカーとは

重症患者を病院外で診療するため、医療機器や医薬品を搭載し、医師・看護師などが搭乗する緊急車両です。処置や投薬を救急現場で開始できるので、病院到着後すぐに高度な医療に移行できます。

*ドクターカーの出動要請は消防本部が「要請基準」に基づいて行うため、住民が直接要請することはできません。



■診療開始までにかかる時間の比較

ドクターカーが出動しない…市内平均29分
した…市内平均19分

約10分の短縮

例えば、三陸町吉浜から通常どおり搬送すると診療開始まで約44分かかりますが、ドクターカーなら出動から約27分で診療が始められます。



■ドクターカーの運用状況

地 区	盛	大船渡	末崎	赤崎	猪川	立根	日頃市	綾里	越喜来	吉浜	合計
119番通報の出動数(件)	110	183	64	66	85	78	31	41	48	27	733
うち、ドクターカーでの搬送数(件)	1	18	14	8	15	5	6	4	11	7	89
ドクターカーでの搬送率	0.9%	9.8%	21.9%	12.1%	17.6%	6.4%	19.4%	9.8%	22.9%	25.9%	12.1%

※各数値は、令和7年4月～8月の統計情報をもとに算定



もしものときに覚えておくと役立つ医療サービス

突然の体調不良やけがは、誰にでも起こり得るもの。そのようなときに落ち着いて行動するためには、日頃からの備えが大切です。ここでは、いざというときに役立つサービスをご紹介します。

119番通報するか迷うとき



■岩手県救急安心センター「#7119」への医療相談

急な病気やけがで救急車を呼ぶか迷ったとき、医師や看護師などの専門家からアドバイスを受けられる電話相談窓口です。



こんなときに#7119

- ・この程度の症状で救急車を呼んでいいのかな…
- ・具合が悪い…すぐに病院に行くべき？
- ・手遅れにならどうしよう…

▶救急車の適正利用にご協力ください

市内全体の救急搬送のうち、軽症で緊急性や入院の必要がないものが約半数を占めています。救急車は、限られた台数で、緊急性の高い患者を搬送します。皆さんのご理解とご協力をお願いします。

緊急だと思ったら、ためらわずに119番通報を！

病院への救急搬送が円滑に



■マイナ保険(3月末まで実証事業中)

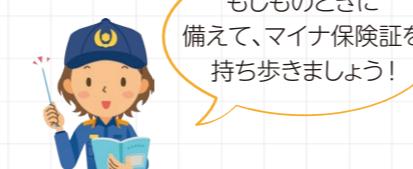
搬送時、救急隊員が患者のマイナ保険証を活用して医療情報を閲覧する仕組みです。患者本人や家族への聞き取りが減り負担軽減につながるほか、適切な応急処置や、受け入れる病院での事前準備がスムーズに行えるといったメリットがあります。

▶税や年金などの救急活動に関係のない情報は、隊員は閲覧できません。

マイナ保険証で閲覧する情報

- ・過去の受診歴やお薬(※)の情報
- ・特定健診の情報(40~74歳の人が対象)

※病院での注射・点滴、薬局で受け取った薬の情報



もしものときに備えて、マイナ保険証を持ち歩きましょう！

「未来かなえネット」のご案内

医療機関・薬局・介護施設・行政の間で、住民の皆さんの病気・飲んでいる薬・検査結果などの情報を共有するためのネットワークが「未来かなえネット」です。それぞれが持つ患者情報をひとつに結びことで、より的確な医療・介護サービスの提供が可能になります。

あなたと家族の健康のために加入してみませんか？

未来かなえネットに加入するメリット

- CASE! 01 病院受診** 医療機関同士の情報共有で、効率的な医療を受けられる
- CASE! 02 救急時** 搬送中に病歴を共有し、到着後すぐに治療を始められる
- CASE! 03 介護** 関係機関の情報連携で、治療確認や退院後の支援に生かせる
- CASE! 04 災害時** カルテなどがなくても情報を確認でき、治療や介護が継続可能

ドクターにも未来かなえネットが搭載されています！



Q 現場対応に医師・看護師が加わったことによる変化や工夫はありますか？

山口 現場で直接的な医療介入が行えるようになったのが

小山 決められたキーワードに合致したときに、ドクターとの出動を要請します。また、現場の救急隊からの報告により出動要請することもあります。

Q ドクターへ要請時の事前準備や病院との連携について教えてください。

事前準備や病院との連携について教えてください。

Q ドクター導入後の変化はどのように感じますか？

小山 医師と患者さんが接触するまでの時間はかなり短縮されました。消防本部から病院到着(処置開始)まで1時間程度かかっていましたが、ド

知らせるために感じる痛みがけて搬送していました。※1 体のどこかが傷ついたショーンによる不安の解消を中心化した蘇生措置などが病院到着には、疼痛(※1)の軽減、病態悪化の防止、安全・確実で迅速な搬送、コミュニケーションによる不快感を心がけていました。

前から可能になり、患者さんにとって非常に有益です。うことでできない薬剤を使用した蘇生措置などが病院到着には、疼痛(※1)の軽減、病態悪化の防止、安全・確実で迅速な搬送、コミュニケーションによる不快感を心がけていました。

Q ドクター導入の効果が実感できた事例は？

山口 昨年発生した耕運機への巻き込まれ事故です。発生時はドクターの出動時間外(※2)でしたが、偶然にも大船渡病院に出動可能なスタッフが揃っていたため、出動を要請できました。また、事故の重大さから、ドクターや連携して対応しました。ヘリも同時に要請し、医師同士で連携して対応しました。

小山 このときは、事故現場にドクターで駆け付けた医師が救出前に処置を行うことで、救出後、速やかにドクターへ搬送できました。※2 県立大船渡病院のドクター稼働時間は、平日午前9時～午後5時

クターなら通報から約30分後には現場で医師による処置を始めるることができます。

大船渡地区消防組合では、令和7年4月からスマートフォンなどを活用した通報システム「Live119」と「NET119」の運用を開始しました。それぞれの特徴をご紹介します。

スマホで簡単便利！新たな緊急通報システム「Live119」「NET119」



■Live119【消防と映像を共有】

Live119は、スマートフォンで火災や救急などの通報現場を撮影して指令センターに共有するシステムです。言葉では伝えにくい現場の状況を、音声と映像で消防署に共有できます。

消防署が必要と判断したときに、通報者の電話番号にショートメッセージで現場撮影をお願いすることができますので、ご理解とご協力をお願いします。

■NET119【簡単な画面操作で119番通報】

NET119は、聴覚や発語の障害などで音声通報が難しい人が、スマートフォンなどのインターネット機能を使用して、簡単な画面操作で素早く119番通報ができるシステムです。

利用開始には事前登録が必要です。登録を希望する人は、通信指令係までお問い合わせください。

消防本部消防課通信指令係(☎27-2119)

※「Live119」「NET119」は株式会社ドーンの商標です。



QRコード